

日本包装管理士会選定「2019 包装界・10 大ニュース」

日本包装管理士会

1. コンビニのおにぎり全品の包装をバイオマスプラスチックに

ある大手コンビニエンスストアは、おにぎり全品(年間およそ 22 億 7 千万個)の包装を、植物由来の原料を配合したバイオマスプラスチック素材に切り替えた。石油由来の素材を減らすコンビニ主力商品の環境対応で、消費財の脱石油素材の動きが活発化することが期待される。

2. 再生プラスチックの使用進む

国際問題化する海洋プラスチックごみ(廃プラ)対策への関心が高まる中、ペットボトルやパウチなどのパッケージに再生プラスチック(MR-PET)を採用する動きが拡大している。MR-PET(メカニカルリサイクルペット)は、表面の汚れのほか、真空・高温化で不純物を除去し、本来の純度と機能を回復させて製品化している。2020 年末までに 100%再生ペットボトルへの切替えを目指している企業が増えている。

3. 消費税増税 10%へ

令和元年 10 月から消費税が 10%に増税した。通常は標準税率 10%が適用されるが、飲食料品や医薬品など一部の商品は、消費税増税後も 8%に据え置かれた。そして飲料が入っている缶やペットボトル、精肉や鮮魚を販売する際のトレイ皿や、惣菜の容器などの包装材は、食品販売に欠かせないものとなるので、それらの包装材は飲食料品の一部として扱われ、軽減税率 8%が適用された。この軽減税率の適用期間は発表されていない。

4. レジ袋の有料化

容器包装リサイクル法の省令改正(2019年 12 月)により、プラスチック製レジ袋はすべての小売店で 2020 年 7 月から有料化の義務づけを行う事になる。ただし、植物を原料にして作るバイオマスプラスチックを 25%以上配合した袋や、海中で二酸化炭素や水に分解するもの、厚みが 0.05mm以上で繰り返し使用出来るものは除外させる見込み。レジ袋の価格や売り上げの使い道は事業者が決定する。すでに、プラスチック製の袋から紙製の袋に切り替える小売店も出てきた。

5. EU 各国は使い捨てプラスチック製品の流通を 2021 年までに禁止する

EU 理事会は 2019 年 5 月 21 日、「特定プラスチック製品の環境負荷低減に関わる指令」を採択した。EU 加盟国は 2 年後をめどに、この指令に対応した国内法を制定していく。禁止対象はストロー・はし・プレート・綿棒の軸・EPS 製食品容器・オキシ分解性プラスチック製品などである。

また、EU 加盟国は今回の指令で禁止とならない蓋つきのペットボトル等について、次の目標達成を目指すことで合意した。①回収率を 2029 年までに 90%、②リサイクル材料含有率を 2025 年までに 25%、2030 年までに 30%にする。

6. 食品衛生法改正でポジティブリスト制度導入への対応急がれる

平成 30 年 6 月 13 日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律により、食品用器具・容器包装について、安全性を評価した物質のみ使用可能とするポジティブリスト(PL)制度の導入等が行なわれた。2020 年 6 月の施行に向けて食品接触材料管理制度の運営主体設立やポジティブリスト記載の内容・様式を検討する準備委員会が設置され、ワーキンググループ(WG)による具体的な検討が始められた。WG のまとめた内容の説明会が実施された。2020 年 2 月には PL 告示も行われる予定である。

7. 脱プラスチックの動き

企業は環境に優しい新素材やプラスチック代替素材の開発に取り組んでいる。プラスチック素材メーカーは生分解性素材のストロー、カップなど食器具の材料開発を進めている。製紙メーカーは“ふやけないストロー”、“湿気や空気を通しにくい包装紙”の開発、欧米製紙各社でも“内面コーティングしない紙製コーヒーカップ”、“木繊維素材で生分解性のグリーンファイバーボトル”の開発が進んでいる。世界的な脱プラスチックの流れの中で、紙素材が期待を集めている。

8. 食品ロス削減の法制化

食料の多くを海外からの輸入に頼る日本において、食品ロスが大きな社会問題となる中、2019 年 5 月に食品ロス削減推進法が成立した。この法律によって、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着が求められ、食品ロス削減を推進していくことになった。包装業界においては、廃棄物の発生抑制(リデュース)に繋がる包装資材や鮮度保持、内容物の分離性、小分け包装などの包材設計がより求められることになった。

9. 国内段ボール生産 3 年連続過去最高

2019 年の段ボール生産量は、全国段ボール工業組合連合会の確報統計によると1月から9月まで前年比 100.2%だった。なお、10月から12月の四半期予測は 100.3%と予測されている。このまま推移すれば前年比 100.5%となる。2019 年を含めた過去3年をみても前年比は 2018 年 101.3%、2017 年 101.7%であり 3 年連続で前年比を上回る。2019 年は、過去の段ボール生産の中で年間生産量の最も多かった 2018 年の 143 億 9400 万 m²を超え 144 億 7128 万 m²と予測され過去最高となる。

10. ドローン運搬箱が日本パッケージングコンテスト 2019 で経済産業大臣賞受賞

公益社団法人日本包装技術協会が主催する同コンテストで、産業用ドローンの運搬箱が経済産業大臣賞を受賞した。SDGsを考慮した包装設計の特徴(①副資材不要で廃棄物ゼロ ②製品・機能を集約し持ち運び点数を削減 ③宅配利用可能)が高く評価された。受賞作は 10 月 10 日・11 日に開催された「暮らしの包装商品展 2019」で展示され、来場者の注目を集めた。